



2010 年、こんな調査をしました

羅臼岳の登山道沿い（斜里側）の森林を詳しく調べています。

知床の森林には、どんな生き物が、どこに、どれくらい生息しているの？

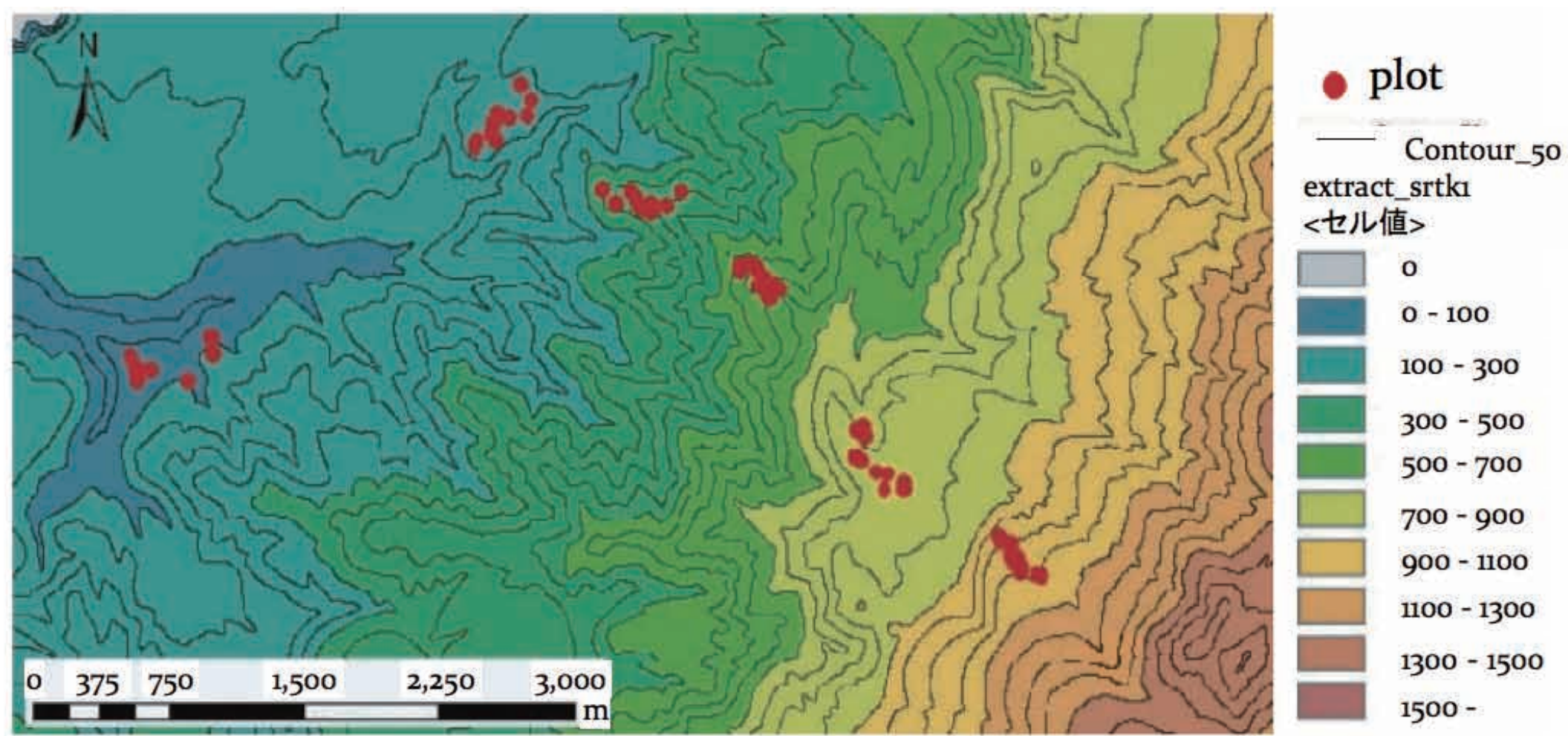
この素朴な、そして一見単純そうな疑問に答えるために、メンバー全員で調査・研究を進めています。

地衣・蘚苔類や土壌動物といった小さな生き物から、樹木のような大きな生き物まで、さまざまな生物相が対象です。

具体的には何をしているの？

要注意！！ 本プロジェクトでは、特別に許可をもらって調査をしています。許可無く、土や植物などの持ち出しはできません。

まずは、調査区域を決めます



標高 50m、200m、400m、600m、800m、1000m、1200m に、調査プロット（10m×10m）を 10 個ずつ設置しました。

植物班 Step 1

区域内の植物は残さず記録



樹木の太さや高さを測定、一番大きな樹木の年齢を推定するためのサンプリング、方位などの測定など、さまざまな計測項目をチームでテキパキこなします。



樹木の下にも、たくさんの植物が生きています。これらの植物の種類や数も記録します。

植物班 Step 2

目立たない植物にも注意



樹の幹にくっついて地衣の仲間、倒木の上にいるコケの仲間も忘れずに。



地衣やコケの仲間は、現地で種名を特定することができません。そのため、一部を持ち帰り、ルーペでさらに観察したり、顕微鏡で形態を確かめたり、他の専門家に送って確認したりと、調査から帰ってから作業が続きます。

土壌動物班 Step 1

土ごと&“落とし穴”で採取



土の中にいる小さな小さな生物は現地で選り分けられません。土ごと持ち帰ります。



地表を歩き回るムシを調べるには、“落とし穴”を使います。

土はプラスチックのカップに入れて、クール便で大学に郵送しました。“落とし穴”に落ちたムシは、サンプル管に移して持ち帰りました。

菌類班

葉や根っこごと採取



森の中のキノコ。菌類相を知るためには重要な情報です。

サンプルを持ち帰って、培養したり、DNA を調べたりします。



キノコは肉眼で見ることができますが、それだけがこの森にいる菌類ではありません。木の葉の中、落ち葉の中、木の根っこの近く... いろんな所に潜んでいるはず??

土壌動物班 Step 2

種名を特定



顕微鏡をのぞきながら、「ここに毛が何本生えているから、これはこのクモかな?」。文献のスケッチと照らし合わせたりしながら、細かい作業が続きます。

土の中の生き物を調べる時は、観察までの準備も結構大変です。特別な装置を使って、土から生き物を選り分けたり、きちんと観察できるようにプレパラートを作ったり...

解析をします

ここからは、パソコンの前に座って、頭を働かせる時間です。現地で計測してきた環境条件（水分量、落ち葉の厚さ）などの影響はあるのか? 他の生物との関連性は? 標高に沿ってどれくらい変化するのか? といった解析を行います。

その結果は・・・乞うご期待！！

もっと知りたいあなたへ

「このプロジェクトに参加して、調査研究を行いたい！」

「知床の森林に関する調査・研究をサポートしたい！」

「調査で得られたデータや情報が欲しい！」

こんな関心をお持ちの方は、右の問い合わせ先までご連絡下さい。

お問い合わせ先

知床生物多様性評価プロジェクト

【Web サイト】 <http://akkym.net/shiretoko>

【代表アドレス】 shiretoko@akkym.net